



青森県 青森地域広域消防  
事務組合消防本部  
消防長 木原 民一

## 水と緑と人が共生するまち —四季折々、豊かな自然の青森—

青森地域広域消防事務組合は、青森県のほぼ中央に位置し、北は津軽海峡及び陸奥湾に面し、南は奥羽山脈の北端部にあたる八甲田連峰、西部は津軽山地・津軽平野へと連なり、豊かな自然に恵まれた地域にあります。

当消防事務組合は、青森市、外ヶ浜町、今別町、蓬田村の1市2町1村で構成され、管内人口は約32万人、面積は1,260.37km<sup>2</sup>を管轄しています。

組織は、平成23年4月1日現在、1消防本部・3消防署・10分署、消防職員445名で構成されており、また、消防団は、4団・86分団、団員2,545名体制で、消防職団員一丸となって地域住民の安心・安全の確保に努めています。

消防本部がある青森市は、特別史跡「三内丸山遺跡」や、期間中観光客300万人が訪れる「青森ねぶた祭」など、世界に誇る歴史と文化を有する北の中核都市です。



青森の春「雪の回廊」

快適に過ごすかは永遠の課題となっています。

東津軽郡に位置する構成町村は、小説家太宰治の作品「津軽」のなかで、その風土・景勝が味わい深く描かれておりますが、津軽海峡線に加え、北海道新幹線開業に向けて工事が進められており、本州と北海道を結ぶ青函トンネルの青森側の安全を守る極めて重要な責務を担っています。

## 青森消防本部の取組

平成22年12月の東北新幹線新青森駅の開業による交流人口の変化に伴い、観光地における救急、救助災害の増加が予測されているところであり、また、大地震をはじめとする広域かつ長期的な災害等で、消防行政に対する新たな教訓が浮き彫りになっているところです。

地震災害等発生時、初動体制の強化や大規模災害にも対応可能な組織体制の充実及び住民に対する津波を含む地震対策を柱とした防災意識の醸成が非常に重要な課題であり、当消防事務組合では応援・受援体制の強化を図り、効果的部隊の運用を構築するとともに、避難訓練等を通じて、住民の災害に対する備えの充実を図っているところです。



防災啓発ポスター



イメージキャラクター「あおしょうくん」 「豪雪災害対策本部」を設置し、過去の雪害による被害の発生状況や気象に関する情報等を踏まえ、人命の安全確保を最重点とする雪害対策に万全を期しているところです。

終わりに、消防の広域化について、当消防事務組合では事務組合再編の可能性もあり、これらの問題に取り組みつつ、青森地域の消防・防災体制をさらに充実・強化していく所存です。